畦っこ瓦版 NO225

畦っこ元気くらぶ
令和７年01月31日
編集　　髙野重春

人と自然が共存できる里山回復を目指した活動

春を待つ準備

１年の中で最も寒さが厳しい大寒に入り、早朝は肌を刺す氷点下の気温が続きます。

落葉した林内は寒風が吹き抜け、落ち葉がカサカサと乾いた音をだして舞い上がり、飛散した葉が木の根元や下草刈りした場所で止まっています。

時折、ゴォーと音を立て強い風が吹くと、大木の幹や枝が大きく揺れて、幹が擦れ合ってギーィギーィと音を立て、枯れた大枝がドサッと落下して、身の危険を感じます。

高木の下は日照が悪く、地表の気温も低いが大枝や枯損木が減少すれば、日照条件が変わり植物の芽吹きや植生に変化が見られるかもしれません。

自然界には、人間が考える以上の回復力があり、春に向けて、何気ない日常を繰り返して再生しています。

風倒木や枯れ枝の落下で日照が改善

乾いた大地からキツネノカミソリ発芽

カヤネズミの生息を確認

田んぼに隣接する半湿地はショウブやミゾソバ、ミソハギ、アキノウナギツカミ、ツリフネソウ、ミズタマソウなどの植物が育っていました。

この貴重な場所にイノシシやシカが侵入して、イノシシの泥浴や踏み付けで湿地環境が変わり始め、

一部でカヤやオギ、マツヨイグサやセイタカアワダチソウ、ムラサキシキブなどが育ち、水環境も劣化してきました。乾燥化した場所は一年間草刈りを放置して、経過観察を行った結果、カヤネズミの営巣が確認できました。

（田んぼの脇で１個、離れた法面で３個）

カヤネズミの球巣

乾燥化してカヤ原